

「めあてーまとめ・振り返り」を位置づけた授業づくり
 ～生徒の考えを深める授業の実践例・中学校国語編～

走れメロス 太宰治

- ① **めあて**
 〈前時の振り返りより〉 ・メロスはすごい ・真の勇者
 ↓肯定的意見
 ・本当は弱い人間 ・友人を人質にした ↓否定的意見
メロスの視点で書かれた描写に注目して、彼の生き方について自分の考えを深めよう。

地の文の一人称 「私」＝メロスの視点

場面	肯定的意見	否定的意見
出発	「私は、今宵、殺される。」 「未練の情」も断ち切り、友のため に命を捨てる強い覚悟を感じた。	「そんなに急ぐ必要もない。」 鼻歌まで歌う姿は、やはり何も考 えていないただの「単純な男」だ。
ピンチ ← 復活	「私の命なぞは問題ではない。」 「私は信頼されている。」 一口の水で復活したのはすごい。 結局、最後まであきらめなかった。 ピンチを越えて、さらに強くなった。	「私は負けたのだ。」 「私は王の言うままになっている。」 一時でもあきらめたのはひどい。 復活のきっかけ(水)もたまたまだ。 自分の力ではない。勇者ではない。

② **まとめ**
 ◎考えてみよう 「私」＝メロス 「おまえ」＝メロス
 「走れ！メロス」「メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。」
どちらが本当のメロスなのか？メロスは「真の勇者」か？

③ **振り返り**
 ・最初は命をかけて信頼に応えようとするメロスを尊敬したが、一時のあきらめや、復活は偶然という意見を聞いて、「真」の勇者ではないと考えが変わった。↓**変容**
 ・「走れ」と命令する側とされる側のどちらが本当のメロスなのか、考えれば考えるほどわからない。終末の「赤面」の理由も変わってくるのではないか。↓**疑問**

③ **まとめ**
〈視点〉に注目し登場人物の気持ちに迫ることで、同じ場面や描写でも様々な捉え方ができ、考えが深まる。

振り返り

(例) はじめはただメロスはすごいと思っただけだったけど、いろいろな意見を聞いて、メロスの中にもっと複雑な感情があることに気付けた。(→A)
 視点が変わるたびに、読者もそこに引き込まれていくことがわかり、読みが深まった。(→B)
 ③ ② ①
 A、解決した過程・学び B、獲得した知識・技能 C、情意面
 他の作品を読むときも、視点を意識して読んでみたい。(→C)

① **「めあての設定」**
 前時の振り返りから、子供の疑問や気付きを引き出し、めあてを設定する。



② **「まとめの設定」**
 学習指導要領の指導事項をもとに設定。
 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
 (読むウ)

③ **「振り返り」**
 教材を通して学んだ読みの視点を「まとめ」として提示することで、他の作品を読む際にも生かすことができるようにする。